

2020年アジアターニングポイント説

～アジア新800年のために私たちがなすべきこと～



古今東西の歴史を俯瞰すると、文明には東と西の2系統があり、800年毎に文明転換期を迎え、主役が入れ替わっていることが分かります。そして、21世紀は西洋文明が夕暮れを迎え、東洋文明が夜明けを迎える転換期にあると予見されています。

浦崎氏は、今から1文明サイクル(=1600年)前の文明転換期を詳細に検討し、「5世紀末に安定していた地域では後に文化創造力が長く持続し、不安定だった地域では短命に終わった」という因果関係の発見者です。

今回、その浦崎氏を広島に迎え、文明論的な見地から、21世紀初頭を生きる私たちの世代が解決・達成すべき課題について語っていただきます。

日時：平成24年1月15日(日) 午後1時30分～4時30分(開場1時)

会場：南区民文化センター 大会議室A

広島市南区比治山本町16番27号 TEL 082-251-4120

会費：2,000円

連絡先：時永朝夫 090-4650-8126 伊東由美子 090-4800-2288
高山周治 090-3746-6736 酒井伸雄 090-8363-6678

講師：浦崎太郎先生



昭和40年3月 岐阜市生まれ
平成元年3月 広島大学大学院教育学研究科修了(理科教育学)
現・岐阜県立可児高等学校教諭

平成2年、古今東西の歴史から共通の盛衰パターンを探る文明法則史学に出会い、平成7年より、本業の傍ら、発見者の村山節、後継者の林英臣の指導を受けつつ、若手有志グループの一員として学説の検証、美研究で会った地域や時代の研究に従事。

平成11年の訪韓後に古代史の日韓比較を行い、これがヒントとなって5世紀末の20年間がその後800年間のアジア史を決定づけた特異な時代であることを発見。その1サイクル(=1600年)後にあたる21世紀末をアジアが望ましい状態で迎えるため、21世紀初頭を生きる私たちが解決・達成すべき課題について、文明論的な見地から提言を行っている。

文明論のほか、教育分野でも全体像の究明や異分野との協働を得意とし、学校・行政・市民活動団体等に対して豊富な研修実績をもつ。

